

あいち環



2024/7/20

会報 第160号

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会



「ラベンダー畑と隠れハチ」

第6回 写真コンテスト 「四季」部門
入選作品
金子 奈央 氏（一般財団法人東海技術センター）

目次

「定時社員総会」報告.....	2	私の趣味.....	7
委員会活動報告.....	3	就任あいさつ.....	8
「特別企画セミナー」報告.....	4	事務局からのお知らせ.....	8
「大気・騒音 WG 勉強会」開催報告.....	6		

四季折々

今年も暑い夏がやって来ました。というのも、この原稿を書いている6月上旬で最高気温30℃を超える真夏日が続いて、既に暑い日々が始まっています。去年の夏は平均気温が過去最高になったと報道がありましたが、今年はエルニーニョ現象が終息したのと、ラニーニャ現象が発生する可能性があるとのことで、去年と変わらない暑い夏になりそうです。

逆に変わっているといえば梅雨です。平年ですと現在は梅雨入りしているのですが、今年は遅れていてまだ梅雨入り発表が出ていません。平年よりもかなり遅いみたいで、この会報誌が発行される時はまだ梅雨の途中かも知れません。梅雨入りが遅れると大雨が続いたりするので、日常生活への不安を感じてしまいます。

新型コロナが5類感染症区分となり1年が過ぎました。コロナの話はほぼ聞かなくなり、メディアでも情報はほぼ見かけることがなくなったように思えます。街中や公共交通機関内でマスクをしている人もかなり減り、している人の方が珍しいかも知れません。昔に戻ったというよりは、コロナ自体は存在しているので、人々の意識が変わったということでしょうか。

日々刻刻と言葉がある通り、変化していくことの多い世の中ですが、人個人としては変わることと変わらないことも選べる私たちです。選べるからこそ自分にとって変えなくて良いものと、より良く変えていきたいものを見つけていきたいですね。

文責：松本 貴郁

令和6年度 定時社員総会報告

事務局長 近藤 浩史

一般社団法人愛知県環境測定分析協会の令和6年度定時社員総会が6月5日、愛知県環境局技監 平野淳一様と愛知県経済産業局中小企業部商業流通課長 西山透様のご臨席を賜り、名古屋市熱田区のサイプレスガーデンホテルにおいて開催されました。

総会は、正会員63名中54名（委任状も含む。）のご出席のもと、はじめに大野会長のご挨拶に続き、来賓の平野様にご祝辞をいただきました。

続いて議事の審議に移り、事務局による説明の後に採決が行われ、令和5年度の事業報告及び収支決算が可決されました。また、令和6年度事業計画及び収支予算が承認されました。



大野哲会長のご挨拶

総会に先立ち、表彰式が行われ、計量士として長年計量管理の推進に貢献された株式会社愛研の波多野群樹氏が愛知県計量関係功労者として愛知県知事から表彰を受け、続いて正会員従業員表彰として10名が大野会長から表彰を受けました。



愛知県計量関係功労者表彰受賞の波多野群樹氏(右)

愛知県計量関係功労者表彰受賞者

氏名	所属事業所
波多野 群樹	株式会社 愛研

正会員従業員表彰受賞者

氏名	所属事業所
入山 沙智代	株式会社 ユニケミー
奥野 麻紀	株式会社 イズミテック
梶浦 郁乃	株式会社 愛研
木原 潤一	一般財団法人 東海技術センター
小出 智恵	株式会社 ユニケミー
佐藤 順通	一般社団法人 愛知県薬剤師会
能島 知宏	株式会社 環境科学研究所
村瀬 あゆ美	株式会社 三進製作所
山内 陽介	一般社団法人 愛知県薬剤師会
山本 昂平	株式会社 イズミテック

また、「令和6年度環境に関する喚起標語」入選者の表彰も行われ、特選の株式会社環境科学研究所の船橋志保氏に賞状が授与されました。

【特選作品】

『こだわる心で極める技術 未来へつなぐ確かな品質』

以上3つの表彰の受賞者を代表して、株式会社愛研の波多野氏から「表彰の栄を賜り、身に余る光栄と感謝しております。このたび表彰された者は、長年にわたり、環境測定分析に携わり、それぞれの立場で、社業及び、業界の発展のために、地道に努力してきた結果が、評価されたものと考えております。本日の受賞を機に、今までの経験を活かして、業界発展のため、さらに努力を致す所存であります。」と謝辞が述べられました。



受賞者の皆様と記念撮影

総会終了後、名古屋学院大学 スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科 教授 青木一起様による『「アンコンシャス・バイアスに対する認識と対策」～組織のダイバーシティと包括性を推進するために～』と題した特別講演が行われました。

アンコンシャス・バイアスとは、「無意識のうちに"こうだ"と思うこと」で、日常にあふれていて、誰にでもあり、ジェンダー関係のみならず、職場における主なハラスメントにも大いに影響していることから、具体的に何をすればいいのか、などについて分かりやすくユーモアを交えてお話いただきました。

特に新たな局面では一度立ち止まって心の中を整理した上で、他の意見も柔軟に受け入れ対処するよう努めるなど、各人それぞれがアンコンシャス・バイアスを意識しながら活動していくことでより良い成果につなげていくのではないかと感じた次第です。



名古屋学院大学青木教授による特別講演

この後行われた特別講演会後の懇親会には、59名の方々にご参加いただきました。

普段なかなか顔を合わせて懇談する機会の少ない会員同士が和気あいあいと会話を弾ませるなどたいへん賑やかな宴となり「コロナ禍前の日常」が戻ってきたことが実感できました。



懇親会のようす

委員会活動報告

◆ 総務委員会

第1回総務委員会を4月23日に書面開催いたしました。委員会では159号に掲載済みの令和5年度景況調査結果について報告するとともに、6月5日開催の定時社員総会における正会員従業員表彰候補者の書類審査をおこないました。本年度定時社員総会において正会員従業員表彰を受けられました皆様、おめでとうございます。環境計量技術の維持発展に向け、さらなる研鑽を積まれることをご祈念申し上げます。

なお、6月28日に開催した環境月間講演会につきましては、10月発行の次号で紹介させていただきます。

総務委員長 林 辰哉

◆ 企画・広報委員会

令和6年度第1回目の委員会を5月10日に書面で開催し、本号会報誌の監修・編集作業を行って参りました。本号では定時社員総会特別講演の報告を掲載しました。次号で環境月間講演会の報告を掲載いたします。また、6月にフットサル大会開催の案内を会員、賛助会員の皆様にお送りしました。会員にとって有意義なレクリエーションになるよう準備して参りますので、皆様のご協力をお願いいたします。

次回8月の委員会では「会報誌161号(10月発刊)の監修・編集」、「フットサル大会の運営」、「令和7年度写真コンテストの募集」について協議いたします。

企画・広報委員長 角 信彦

◆ 教育研修委員会

6月13日、14日に42名が参加して環境測定分析新任者研修会をオンラインで開催しました。東海技術センター 山本氏、テクノ中部 判治氏、環境科学研究所 牧原氏及び作業環境測定インストラクター 新谷氏から環境測定分析に必要な基本的な知識を学びました。

教育研修委員会は、7月26日に精度管理研修会①【基礎統計コース】の開催を予定しています。その後、9月に精度管理研修会②【中堅実務コース】、11月に環境計量士等研修会、来年1月にSOP研修会を開催する予定です。

近年、オンライン開催のため愛知県や中部地方以外からの参加が増加しております。引き続き多数のご参加をお待ちしております。

教育研修委員長 濱地 清市

◆ 技術委員会（水質、大気、騒音）

5月24日に技術委員の第1回全体会議を開催しましたので報告いたします。

★ 水質・土壌ワーキンググループ

今年度は、模擬排水中のCOD（Mn）とBODを対象とした共同実験を行います。6月から募集を開始しておりますので、是非ご参加ください。報告期限は8月9日としていますので、それまでにご提出ください。共同実験の検討会の日取りにつきましては、追ってご案内いたします。

★ 大気・臭気ワーキンググループ

今年度は、排ガス中の窒素酸化物（NO_x）を対象とした共同実験を実施します。9月頃に募集のご案内、11月頃に共同実験を実施する予定です。詳細は応募要項に記載させていただきますので、ご確認の上、奮ってご参加ください。

★ 騒音・振動ワーキンググループ

昨年度実施が延期となっていた勉強会を7月1日に実施しました。会員のJR東海コンサルタンツ株式会社様に講師を務めていただき、新幹線騒音をテーマとした内容をお話いただきました。

また次に今年度の活動として、共同実験を実施します。先日勉強会で学んだ「新幹線騒音」を対象とした測定を計画しており、11月頃に実施する予定です。詳細は応募要項に記載させていただきますので、こちらもご確認の上、ご参加ください。

技術委員長 伊藤 諭志

◆ 災害緊急時対応委員会

災害緊急時対応委員会では6月18日に第1回委員会を開催し、災害協力認定会員名簿の連絡先等の修正の確認、災害時調査のマニュアル案の確認、本年度の活動予定の確認を行いました。

令和6年度も自治体との災害時協定、他県単との災害時相互支援協定における災害訓練や情報交換等を活発に行い災害発生時の対応力の向上に努めてまいりますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

災害緊急時対応委員長 林 昌史

令和5年度 特別企画セミナー

開催報告

総務委員長 林 辰哉

3月26日に愛環協・日環協中部支部共催で特別企画セミナーを開催しました。セミナーは愛知県産業労働センター（ウインクあいち）にて対面式で開催し、39名が参加しました。

第1部の「PFAS課題と分析アプリケーションについて」では、アジレント・テクノロジー株式会社の城代航氏と株式会社島津製作所の坂井健朗氏より、PFASの基礎部分として規制に関する社会的背景や、分析概要論としてPFAS分析のノウハウや分析事例、さらに関連アプリケーションのご紹介をいただきました。特に、分析事例の紹介や分析時の留意すべき事項は、具体的にとても分かりやすいご説明だったと思います。



第2部の「JIS K0102の規格体系の見直しの現状について」では、株式会社環境科学研究所の牧原大氏より、現在のJIS K0102の問題点から始まり、規格体系見直しの目的や方針、そして既に公示済みである第3部までの見直し内容についてご説明していただきました。特に、Q&Aでの猶予期間の説明は具体的で、とても有益なご説明だったと思います。

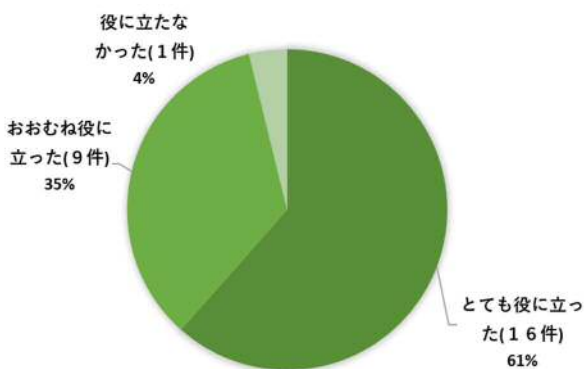


第3部の「能登半島地震における被災地訪問について」では、日環協中部支部の大野哲支部長より被災地訪問時の状況、そして株式会社エオネックスの宮本直人氏より地震発生時の生の声を届けていただきました。大変貴重なお話しだったと思います。愛環協では令和5年度末の景況調査においてアンケートをおこない、会員の皆様のBCP策定状況をお聞きしたところです。東日本大震災後は2割くらいのBCP策定状況に対し、現時点では4割が策定済み、さらに策定予定ありまでを含めると6割弱を占めており、BCPに対する意識の高さが確認できました。1月の能登半島地震の発生を受けて策定を決めた会員が多くあると推測しています。震災に見舞われた地域の方々には、1日も早い復興を祈念しております。

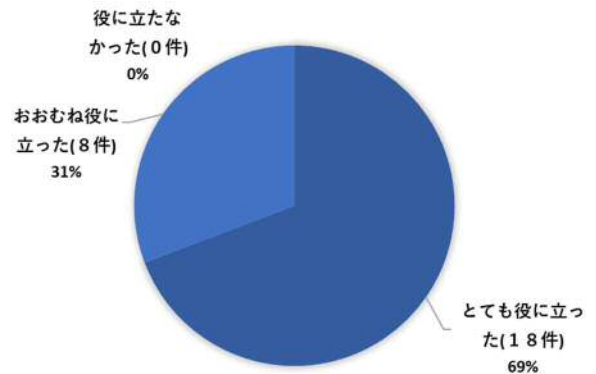


◇参加者からのアンケート結果（全26件）

① 「PFAS課題と分析アプリケーションについて」



② 「JIS K0102の規格体系の見直しの現状について」



③ セミナー全般に対する感想

- JISの疑問や改正について、日環協が窓口となっていることが分かった
- 当社ではPFASは扱っていないものの、概要、課題、システムの流れが分かりやすかった
- JIS K0101との並行課題やパブリックコメントを含め、捉えやすい説明であった
- JISの見直しについて話を聞く機会がなかったため、とても有効であった
- PFAS分析に必要な分析機器を知ることができた

④ 今後希望するテーマ

- 立入検査は毎年取り上げてほしい
- 法令、基準値改訂等 業界のトピックス、分析方法の最新情報
- 分析機器に関するDXの事例
- 計量事業所が抱える課題について生の声を聞き共有したい
- 2月開催を検討してほしい

今回は久しぶりのリアル開催ということで、多くの方々にご参加をいただきました。また、セミナー終了後には会場近くで1フロア貸し切りの懇親会を開催し、講師の方々を囲み遅い時間まで盛り上がったことが印象的です。

愛環協では、社会でのHOTな話題、そして、みなさまのご要望にお応えできる内容を企画して、今後も特別企画セミナーを開催してまいります。これからも、愛環協の活動へご協力をお願いします。

「大気・臭気WG勉強会」開催報告

三協熱研(株) 角田 健二

令和6年1月26日に4年振りとなる対面式での勉強会を行いました。

株式会社テスト様をお招きし、「ポータブルガス排ガス分析計」について参加者12名で開催しました。

第1部：多成分燃焼排ガス分析計 testo350/350J について講演

- ・各測定成分の測定原理解説
- ・操作方法、維持管理、メンテナンスについての説明
- ・計量法での位置づけについて解説

第1部の5段階評価のアンケート結果を図-1に示します。

理解度の平均は「4.4」、役立度は「4.4」となりました。

「技術の進歩に驚きました」、「メリットデメリットを理解できた」、「導入を検討したい」等の意見・感想が寄せられました。

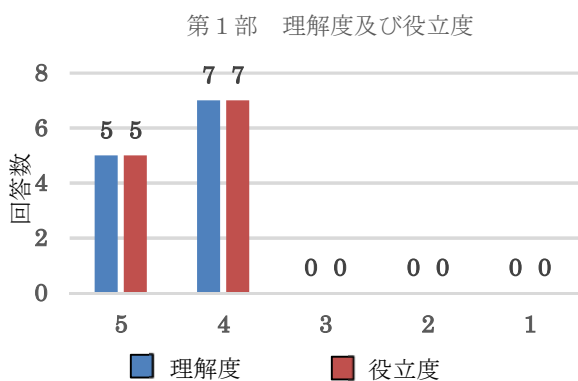


図-1 第1部のアンケート結果

第2部：デモ機を用いた実演・自由操作

- ・多成分燃焼排ガス分析計 testo350/350J の展示・実演・自由操作
- ・高温排ガス対応型ピトー管他各種ピトー管展示・自由操作
- ・温度計・差圧計各種展示・自由操作

第2部の5段階評価のアンケート結果を図-2に示します。

満足度の平均は「4.4」、役立度は「4.5」となりました。

「初見でもわかりやすかった」、「重さの感覚を知ることができて良かった」等の意見・感想が寄せられました。

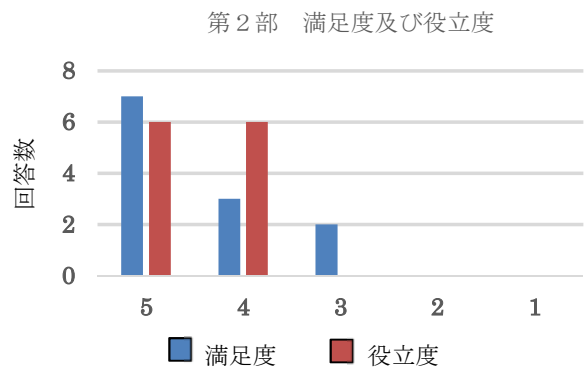


図-2 第2部のアンケート結果

アンケートへのご協力ありがとうございました。

大気・臭気WGでは令和6年度は共同実験を企画・開催予定です。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

最後になりますが、今回の勉強会開催にあたり株式会社テスト様のご協力により充実した勉強会が実施できたことを心より感謝申し上げます。



「私の趣味」 生物の飼育

テクノ中部 吉田 謙

愛環協関係者は専門が化学系の人が多いと思いますが、生物系の私は、色々な生き物を飼育するのが好きです。いくつかエピソードを紹介します。

【カブトムシ】

以前カブトムシを数年にわたり飼育していた事がありました。カブトムシの飼育は比較的簡単で、適当な飼育ケースに腐葉土と木切れとカブトムシを入れておくだけで大丈夫です。春～夏には、ホームセンターなどでも飼育コーナーが設置されるので市販品で手軽にそろえることも可能です。なお、スイカなど水分の多い餌をあげ過ぎるとおなかを壊すので要注意です。

初めは雌雄1匹ずつ飼い始めました。カブトムシの寿命は1年です。カブトムシは、つがいと容易に交尾し、秋になって寿命を迎えますが、腐葉土（ないしは市販の昆虫マット）をたくさん入れておけば、冬以降、幼虫の成長も観察できます。そしてサナギになり成虫になります。



2年目は5匹に増えました。ケースを大きいものに替えそのまま飼育しました。

3年目は21匹に増えました。ケースをさらに大きいものに替えそのまま飼育しました。

4年目は13匹に減り、異変が起きました。奇形の個体だらけになってしまったのです。特に雄がひどく、角が曲がっているもの、角が異常に短いもの、足が足りないもの、極端に小さいものなど様々でした。普通ならここで飼育をやめるところですが、私は構わずそのまま飼育続けました。その年も幼虫は生まれましたが、ほとんどが大きくならずに途中で死んでしまいました。

5年目は全滅かと思いましたが、雌1匹のみ成虫になりました。外見は正常だったので、別途元気な雄1匹を入手し、2匹で飼育しました。

6年目は、正常な個体6匹が無事生まれ、近所の子供のいる家庭にあげることにしました。

今思えば当たり前のことですが、近親交配の生体実験をしていたことになりそうです。少しかわいそうなことをしました。

【溺れて死ぬ魚】

カムルチーや近縁のタイワンドジョウという魚をご存じでしょうか。通称のライギョの方が有名でしょうね。東アジア（中国・台湾・朝鮮半島）からの外来魚です。

このライギョは、鰓（えら）呼吸のみならず、空気呼吸もできるのが特徴です。鰓の隣に「上鰓器官（じょうさいきかん）」という粘膜のひだ状のものがああり、口から吸いこんだ空気からこの器官で酸素を採取できます。

溶存酸素量（DO）が少ない劣悪な水域でもこの空気呼吸のおかげで生きることができます。通常の魚のように鰓呼吸もしますが、鰓だけでは必要な酸素が得られず、空気呼吸を全くしないと溺れて死んでしまいます。

ライギョは1m近くまで成長する個体もありますが、釣るには大きい方が良くても飼うには大変なので、20cmくらいの小型個体をミミズで釣り、水槽の中層に柵を設置して表層に上がれないようにして確かめたことがあります。やはり、水面に出られなくてかなり衰弱してきたため、さすがにかわいそうなので柵を除去したらすぐに水面から口を出し空気呼吸をしました。

ちなみにライギョは魚食魚ですが、ブラックバスやブルーギルのように遊泳力が抜群ではないため、外来生物法では特定外来生物には指定されていません。従来から日本にいる魚食魚のナマズと同様東アジア原産であり、爆発的に増えることなく日本の生態系に大きな影響は及ぼさずに、病気で弱ったフナやカエルなどを主に食べている可能性もあります。その場合、フナなどの繁殖にとっては生命力の弱い遺伝子を淘汰してくれるため、むしろプラスに働いている可能性すらあります。



【水陸両用の生き物】

アメリカザリガニはみなさんご存じのことでしょう。アメリカザリガニは鰓呼吸でずっと水中でも大丈夫ですが、鰓さえ濡れていれば陸上でもかなりの長時間生きることができます。

家の近くの相当汚れた用水路に、ほぼアメリカザリガニしかいない場所があります。そこでは、アメリカザリガニは死んだように水に浮かび、片側の足を下にして胴体を横向きの半身にし、水面上から鰓に空気を取り入れて呼吸をしています。陸上に少し上陸している個体もあります。溶存酸素量はかなり少なく魚類は息できない場所ですが、アメリカザリガニは呼吸方式がたくましいです。なお、その用水路には他に餌となりそうな大きめな生物は見当たらないので、共食いしながら繁殖している可能性すらあります。

アメリカザリガニは、外来生物法において令和5年6月にようやく条件付き特定外来生物に指定されました。個人的には今さらって感じがします。何も生息できない水域よりも、たとえアメリカザリガニだけでも生きている水域の方が良い気がします。野鳥類の餌にもなっており、日本の生態系ピラミッドの一角を担っているという考え方もあります。

いずれにしろ、外国の地でも定着できる生物は、何かしら劣悪な条件でも生き延びられる強い生命力を持っています。ちなみに、アメリカザリガニは中国では養殖が盛んで食用として重要な生物となっています。また、過密に飼



うと脱皮の後などによく共食していることがありますが、同じ親を持つ兄弟同士のアメリカザリガニのグループは、そうではないグループと比較して、共食をする率ははるかに少ないという

文献を見たことがあります。哺乳類や鳥類ならともかく、本当に兄弟か否かを認識できるのか半信半疑で、いつか自分も飼育実験を試してみたいと思っていましたが、特定外来生物に指定されて、実施が困難になってしまいました。

就任あいさつ

本年4月に飯沼前事務局長の後を受け事務局長に就任いたしました近藤浩史と申します。

私自身、この3月までの38年間環境行政に身を置く中で、本庁の各部署や地方機関（県民事務所・公害調査センター等）での勤務に加えて、(財)2005年日本国際博覧会協会や中部国際空港(株)への出向など多岐にわたる業務に携わってまいりました。

就任から日も浅く、まだまだ不安を感じながらの毎日ですが、こうした経験を生かしつつ、少しでも多く会員の皆様のお役に立てるよう務めてまいります。

ちなみに趣味は、半世紀近く続けている卓球とビールを飲みながらのプロ野球観戦、他には国内の温泉旅・ドライブなどです。

どうぞよろしく願いいたします。



近藤 浩史

事務局からのお知らせ

阿部理事 愛知県功労者表彰 受賞

阿部裕士理事（㈱三進製作所・写真中央）が、6月10日、令和6年度環境保全関係功労者の「環境衛生事業功労（長年にわたり環境衛生事業の推進に尽力し顕著な功績をあげた個人）」として、愛知県知事から表彰を受けられました。



おめでとうございます。

【精度管理研修会②（中堅実務コース）】
令和6年9月19日（木）・20日（金）
オンライン開催

【フットサル大会】
令和6年10月12日（土）
稲沢フットサルスタジアム（稲沢市井之口大坪町）

【環境計量士等研修会】
令和6年11月29日（金）
オンライン開催

○夏季休暇のお知らせ
8月13～15日は、夏季休暇となります。

編集後記（小西 成実）

本号の表紙写真、編集に携わりながら私もうつりと眺めていたのですが、瑞々しいラベンダー畑の中に隠れたハチの姿を、皆様見つけだすことができましたでしょうか。年に一度はどこかしら旅行に行っている身ではあるものの、センスの光る写真を撮るのは中々に難しく、歴代「あいかんきょう」の表紙を飾っている写真を拝見しては、その美しさに感じ入るばかりです。

「あいかんきょう」は本号で第160号を迎えました。協会の諸活動にご尽力頂いた皆様様に心より感謝を申し上げます。さらなる質の向上と発展を目指して参りますので、今後ともご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

発行人 (一社)愛知県環境測定分析協会
会長 大野 哲
〒460-0022
名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL: 052-321-3803
FAX: 052-684-4238
E-mail: aikankyo@nifty.com

編集 (一社)愛知県環境測定分析協会 企画・広報委員会
委員長: 角 信彦
副委員長: 石井 良孝、大場 恵史
委員: 山本 浩明、加藤 直孝、中野 雅則
松本 貴郁、野田 麻美、日野 栄一
佐藤 勇人、小西 成実